



World Leading Technology

2026年6月期 決算説明資料

2026.8.25

澁谷工業株式会社



SHIBUYA

未来ビジョン宣言

企業理念

Purpose

私たちの存在意義

2026年6月にパーパスを公表

ダントツ共進化で社会に役立つものをつくる。

Mission

私たちの使命

ダントツ製品でお客様の繁栄をサポート

Vision

私たちの志

生活に不可欠な業界の製造を支える
リーディングカンパニー

Value

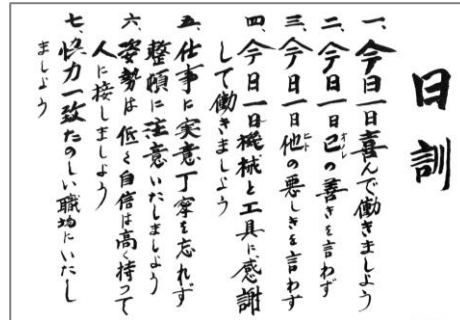
私たちの価値観

グローバル市場で持続的に成長

企業理念



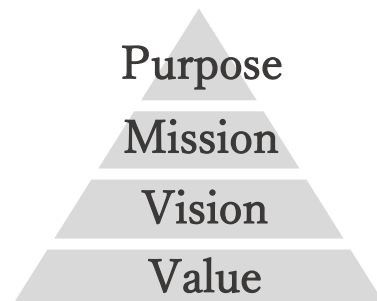
創業の原点は「喜んで働く」



初代社長 が制定した「日訓7か条」は、「喜んで働く」から始まり、すべてのものに感謝する心をもつことが、良い仕事・明るい職場・自身の健康に繋がることを企業理念としています。

シブヤ魂 の体得と実践

澁谷学術文化スポーツ振興財団の設立をとおして、地域社会との発展をめざし、常に明るく前向きでやり抜く シブヤ魂を体得し実践した経営基盤があり今日があります。

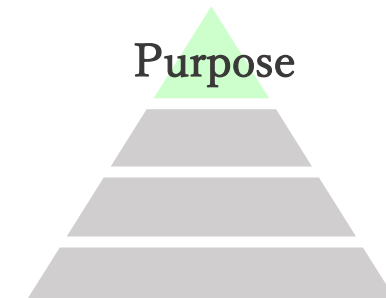


私たちは今、
承継すべきものに新しい時代の変化を取り入れる「不易流行」の理念を全社で共有し、新たなステージへ挑戦します。

Purpose

－ なぜ存在するのか －

(Why - 存在意義)



ダントツ共進化で社会に役立つものをつくる。

Co-Evolution

「共進化」は、永い生命の歴史が生み出した自然界の驚異の現象です。

厳しい環境に適応し次の世代へと命を繋ぐため、共存する種同士が互いを刺激し合い、よりスピーディにダイナミックな進化を実現します。



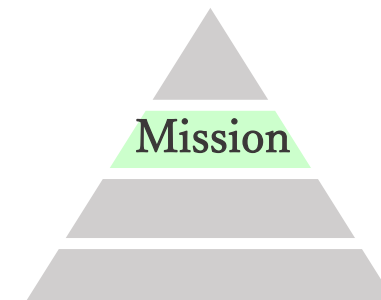
SHIBUYAも、大切なお客様の夢を叶えたい、社会に役立つものを創りたいという思いのもと、喜んで働き、感謝し、そしてやり抜くことでお客様と共に進化してきました。

次世代の先端技術を常に求めて、お客様と、パートナー企業と、すべてのステークホルダーと共に成長し、ダントツレベルで社会に必要とされるものを実現し、新たな可能性を拓けます。

Mission

(What - 私たちの使命)

－ 何をなすべきか －



ダントツ製品でお客様の繁栄をサポート

お客様の繁栄が設備投資に
つながり設備メーカーの発展があります

創業時からのカスタマー・ファーストを貫きます

お客様の安全・安心・安定の生産を常にサポートします

産官学連携など新しい知恵と工夫で新技術をお客様へ提案します

高品質な製品を高効率で生産する最先端システムでお客様の発展を支えます

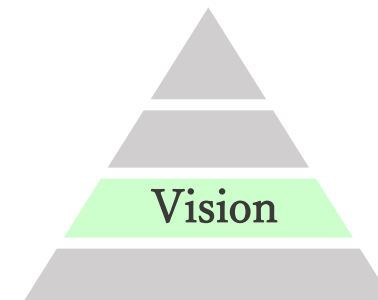
営業部門が新たなニーズを発掘し、技術陣が「世界に未だない“ほんもの”」を創ります

ダントツ製品の開発から企業成長を実現し、お客様の生産ラインの永続的な稼働をめざします

Vision

(What - 理想像)

－ どんな会社になるのか －



生活に不可欠な業界の製造を支える リーディングカンパニー

1. 世界じゅうの人々の生活に不可欠な製品づくりを革新する会社になる

飲料・食品・医薬品・医療・農産物・半導体。どの業界も人類が生きるため必要とされ、その生産ラインは止められない使命があります。私たちはそれら供給責任を持続可能とし品質向上する最新技術を追求していきます。

2. 人と社会と地球に優しい生産活動を実現する会社になる

私たちは、人類のより豊かな生活のため、自社のテクノロジーと幅広い人財を通じて、地球環境に優しい生産活動をめざすお客様のイノベーションをサポートし、幸福な社会の達成に貢献していきます。

3. 多様性を重視しすべてのステークホルダーとともに成長する会社になる

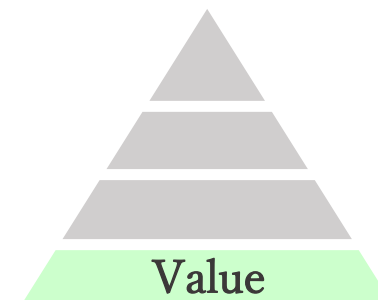
私たちは、お客様・株主様・取引先や地域社会とともに未来社会を考え、DEI（^{Diversity}多様性, ^{Equity}公平性, ^{Inclusion}包含性）を推進し、中途経験者・女性・外国人など多様な人材が「自分らしく」共に働き、全員のWell-beingをめざしていきます。

Value

(How - 行動指針)

－ どのように実行するか －

グローバル市場で持続的に成長



私たちは2031年3月に創業100周年という大きな節目を迎えます。
2030年6月期に連結売上高2,000億円達成を目標としグローバル展開を加速します。

1. 日本のアイデアを世界へ

日本は、高齢化や人手不足が課題となっています。省人化・無人化のニーズに対応したシステムは社会貢献に繋がっています。世界最速の高齢化が進行する日本のアイデアは海外にも役立つ前向きな機会と捉えています。

2. ダントツのサービスサポートを世界へ

当社の製品を納入させて頂いたユーザー様による当社サービスサポートの評価が高く、新製品や既設の設備計画へリピートオーダーを頂ける確率が高いことに感謝し、ご期待以上のカスタマーサポートをグローバルで提供してまいります。

3. One Shibuyaグループ戦略で世界へ

当社の発展の戦略の一つにM&Aがあり、新しい事業領域へ参画し、既存のコア技術とのシナジーを生み出してきました。グループ内での交流を活かし、グローバル市場でより効率的で多角的な活動を実践していきます。

目次

01 業績ハイライト

02 2026年6月期業績

- 決算サマリー
- 営業利益増減（前年比）
- 四半期毎の売上高・営業利益
- セグメント別売上高・営業利益
- 地域別売上高
- 受注高・受注残高
- 連結貸借対照表
- 連結キャッシュ・フロー計算書
- 設備投資・減価償却費・研究開発費

03 中期経営計画2027の進捗と展望

- 中期経営計画2027の位置づけ
- 外部環境の見通し
- 中期経営計画2027の概要（数値目標）
- 中期経営計画2年目の数値実績

- 中期経営計画2年目の進捗と展望
 - 新製品開発
 - 新市場開拓
 - 新事業創出
 - DX化
 - 資本コストや株価を意識した経営
 - コーポレートサイトのリニューアル
 - キャッシュアロケーション方針
 - 生産増強投資
 - ESG戦略

04 2027年6月期予想および取り組み

- 2027年6月期予想
- 戦略目標の見通し
- 2027年6月期の取り組み
- 株主還元方針

05 Appendix

- Our Business
- Global Activities
- 当社製品

01

業績ハイライト

業績ハイライト

26/6期実績

- ✓ 前期比で増収ながら、営業利益、経常利益は減益
- ✓ 売上高は過去最高を更新
- ✓ パッケージングプラント事業は増収増益ながら、メカトロシステム事業、農業用設備事業は増収減益

26/6期 (中計2年目) の取り組み

- ✓ 2026年6月期は、売上高・営業利益とも期初目標を達成。中期数値目標は若干下回った
- ✓ 各事業で新製品の開発に加え、昨年開発した新製品の受注獲得が進む
- ✓ 次世代プラットフォーム「SHoPS」を開発。無人化ライン実現を目指し、MIRAIテックラボ構築が進行中
- ✓ 新市場開拓では、拠点および生産体制の強化が進展しており、本格的な営業・生産フェーズが目前
- ✓ 新事業創出では、固液混合・分散システムや自家細胞バンク向け自動細胞培養システムの受注獲得
- ✓ 一気通貫ものづくりDXプロジェクトが進行中

27/6期予想 ・取り組み

- ✓ 増収増益を見込み、中期経営計画の数値目標を達成する予想
- ✓ 次期中期経営計画に向け、継続して、新製品開発、新市場開拓、新事業創出に取り組む

02

2026年6月期業績

決算サマリー

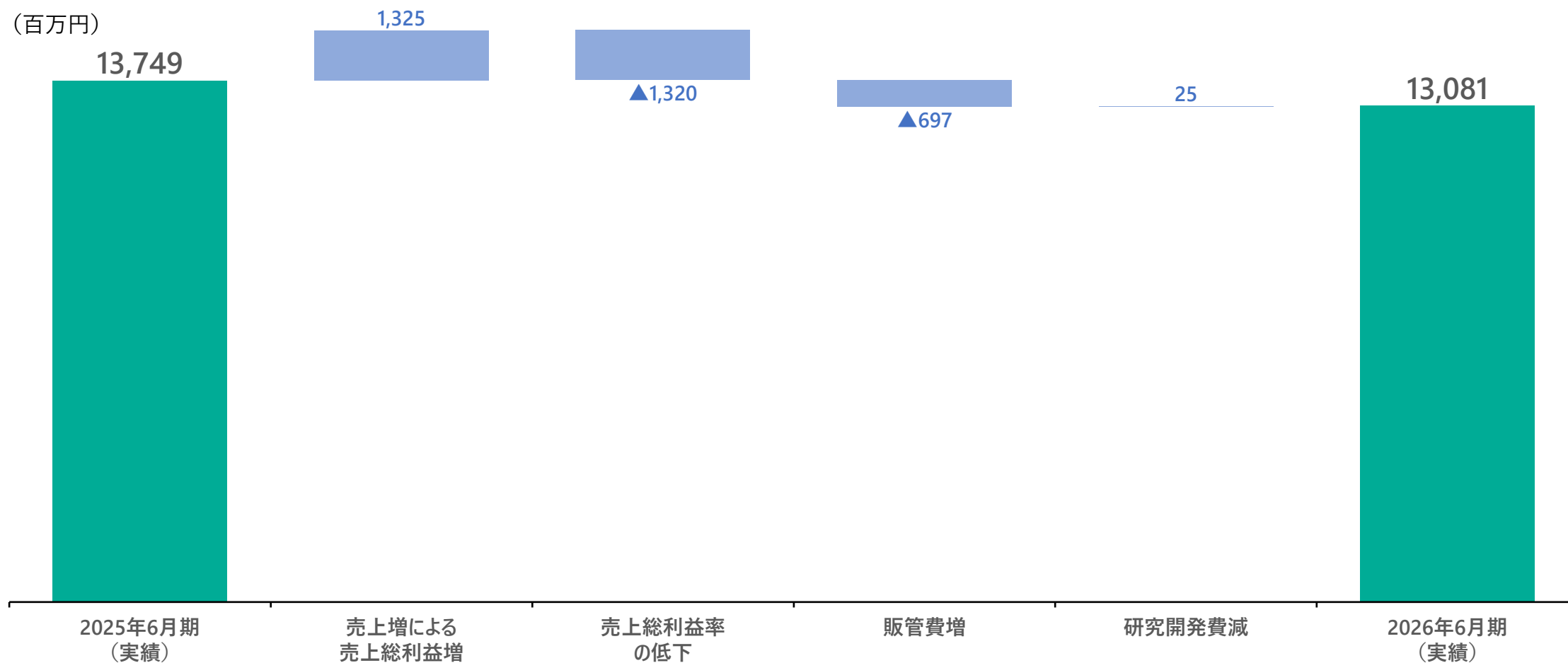
- ✓ 前期比で増収ながら、営業利益、経常利益は減益。売上高は過去最高を更新
- ✓ 売上高・営業利益とも期初目標を達成
- ✓ 2026年6月期の配当金は、2025年6月期より 5 円増額し、年間100円を予定

(百万円)	2025年6月期 (実績)		2026年6月期 (実績)		増減額 b-a	増減率 (b-a)/a
	金額 a	売上比 -	金額 b	売上比 -		
売上高	129,017	100.0%	135,613	100.0%	6,596	5.1%
売上総利益	25,206	19.5%	25,236	18.6%	30	0.1%
販売費および一般管理費	11,457	8.9%	12,155	9.0%	697	6.1%
営業利益	13,749	10.7%	13,081	9.6%	▲667	▲4.9%
経常利益	13,773	10.7%	13,560	10.0%	▲212	▲1.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,052	7.8%	10,223	7.5%	170	1.7%
EPS (円)	363.3		369.5		6.2	
ROE	9.6%		9.0%		▲0.6pt	

2026年6月期 (期初計画)		増減額 (計画対比) b-c	増減率 (計画対比) (b-c)/c
金額 c	売上比 -		
133,000	100%	2,613	2.0%
-	-	-	-
-	-	-	-
13,000	9.8%	81	0.6%
13,200	9.9%	360	2.7%
9,300	7.0%	923	9.9%
336.2		33.4	

営業利益増減（前年比）

- ✓ 売上増による売上総利益の増加があったものの、変動費、固定費とも増加したことにより、営業利益は減益
- ✓ 変動費、固定費の増加は、主に原材料価格の上昇、人件費および償却負担の増加による

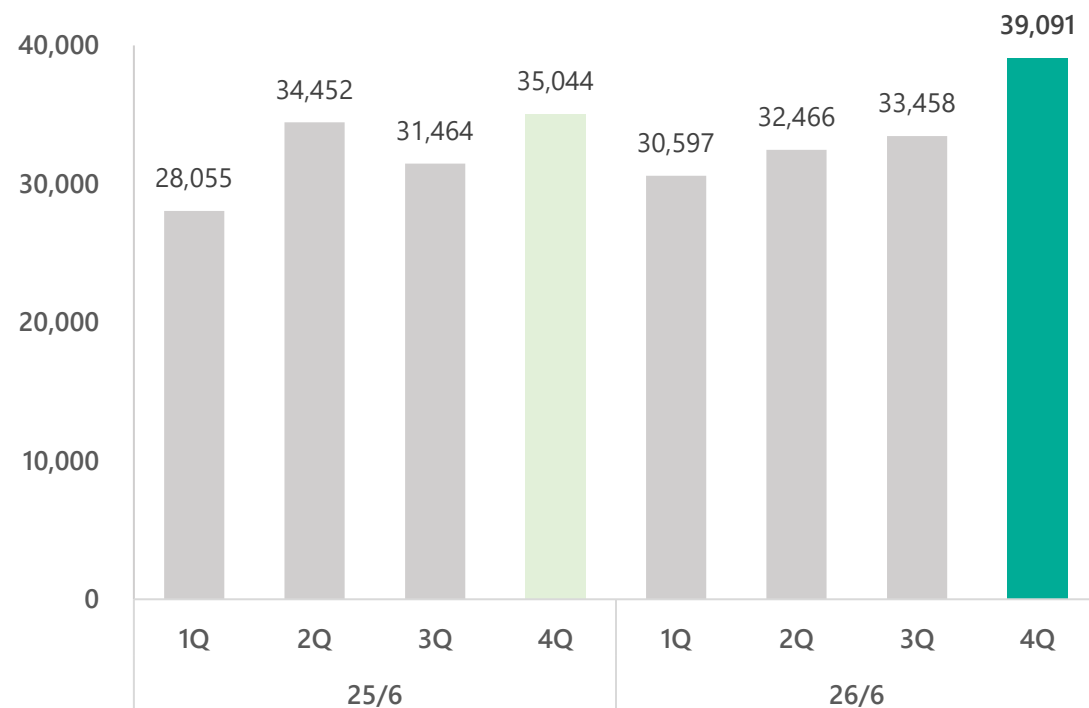


四半期毎の売上高・営業利益

- ✓ 第4四半期（4～6月）は売上高が前年同期比11.5%増、営業利益が同58.2%増
- ✓ 第4四半期のセグメント別売上高は、パッケージングプラント事業が減少したものの、メカトロシステム事業・農業用設備事業が増加

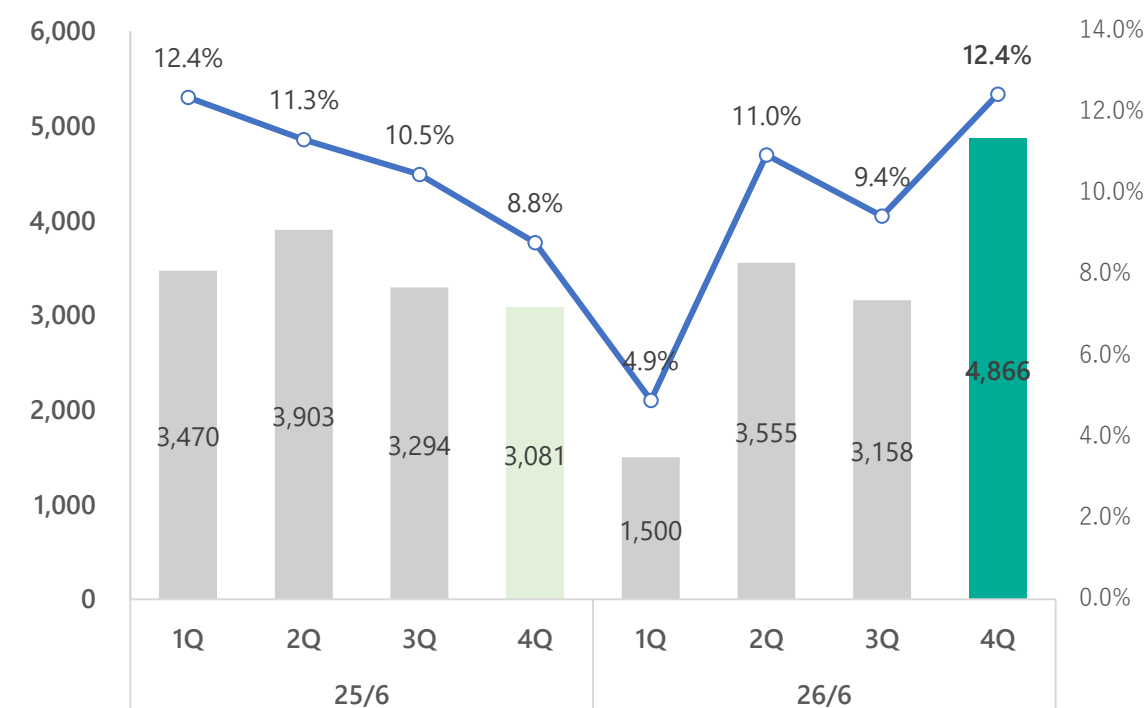
売上高

(百万円)



営業利益・営業利益率

(百万円)



セグメント別売上高・営業利益

- ✓ パッケージングプラント事業は増収増益
- ✓ メカトロシステム事業、農業用設備事業は増収減益

	(百万円)	2025年6月期	2026年6月期	増減率
パッケージングプラント	売上高	80,081	84,041	4.9%
	営業利益	12,574	13,239	5.3%
	営業利益率	15.7%	15.8%	0.1pt
メカトロシステム	売上高	37,765	38,997	3.3%
	営業利益	2,341	1,781	▲23.9%
	営業利益率	6.2%	4.6%	▲1.6pt
農業用設備	売上高	11,170	12,574	12.6%
	営業利益	1,042	520	▲50.1%
	営業利益率	9.3%	4.1%	▲5.2pt
調整額	営業利益	▲2,209	▲2,460	-
連結	売上高	129,017	135,613	5.1%
	営業利益	13,749	13,081	▲4.9%
	営業利益率	10.7%	9.6%	▲1.0pt

パッケージングプラント事業

- ✓ 食品用プラントは調味料充填システム、飲料無菌充填システムが減少
- ✓ 薬品・化粧品用プラントは注射薬シリンジ充填システムや点眼剤充填システム、化粧品充填システムが増加

メカトロシステム事業

- ✓ 医療機器は部品不足の解消に伴い第3四半期より増産を行った結果、北米など海外向けが増加
- ✓ 半導体製造システムはデータセンター向け光通信モジュール用ボンダが好調で増加
- ✓ 医療機器において、前連結会計年度に発生した部品の耐久性問題に関して、交換の実施に伴う追加費用が発生したため減益

農業用設備事業

- ✓ 柑橘類向けおよび蔬菜類向け選果選別プラントが増加
- ✓ 一部の大型プラントで採算性の低い案件があったことに加えて、新本社工場の完成に伴う償却負担の増加も影響したことから減益

地域別売上高

- ✓ 国内向け、海外向けともに増加
- ✓ 北米向けは、医療機器が増加したものの飲料無菌充填システムが減少
- ✓ 中国向けは飲料無菌充填システムが増加

国内

802億円（増減額 + 46.5億円）

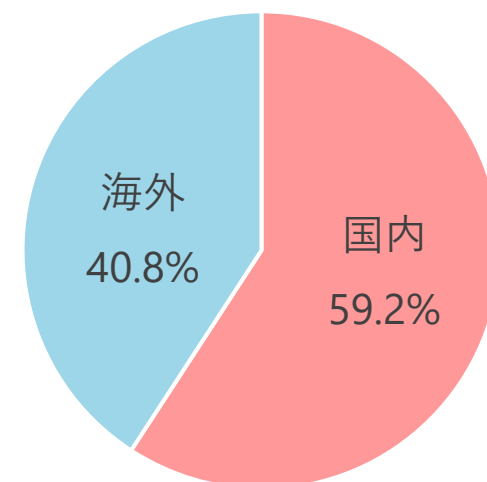
海外

553億円（増減額 + 19.5億円）

	2025年6月期	2026年6月期	増減率
(百万円)			
日本	75,626	80,271	6.1%
海外	53,392	55,342	3.7%
－中国	12,817	15,506	21.0%
－アジア	17,895	18,701	4.5%
－北米	15,408	13,288	▲13.8%
－その他	7,270	7,846	7.9%
連結	129,017	135,613	5.1%

地域別売上高構成比

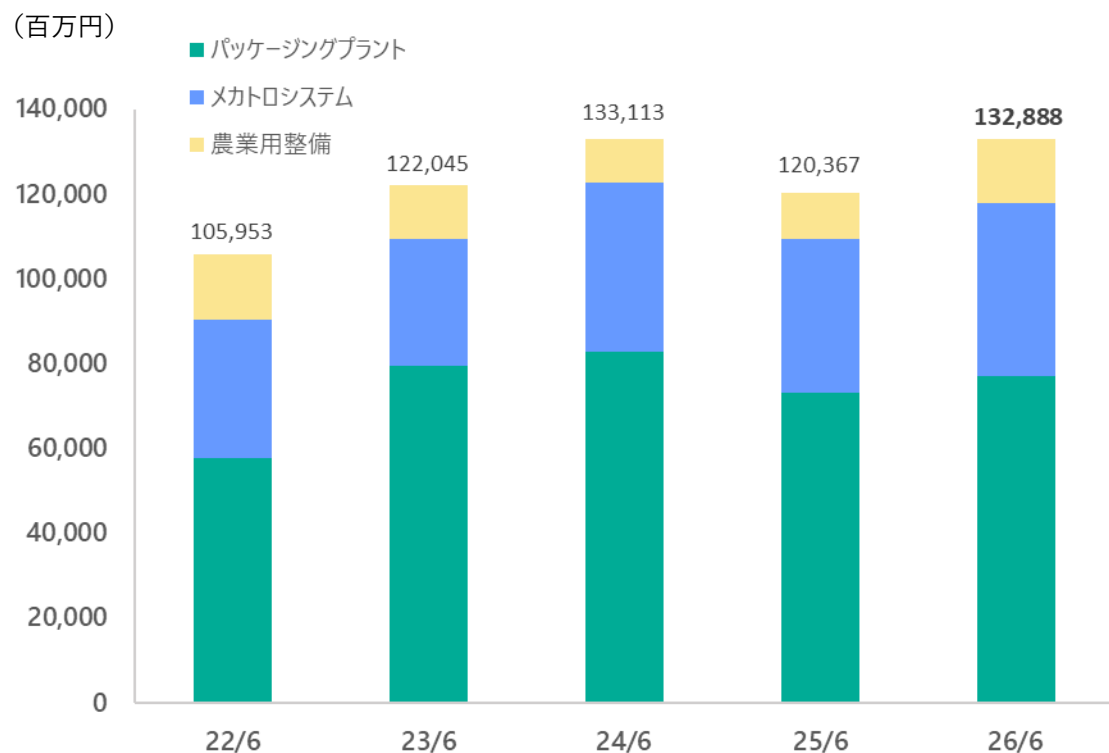
2026年6月期



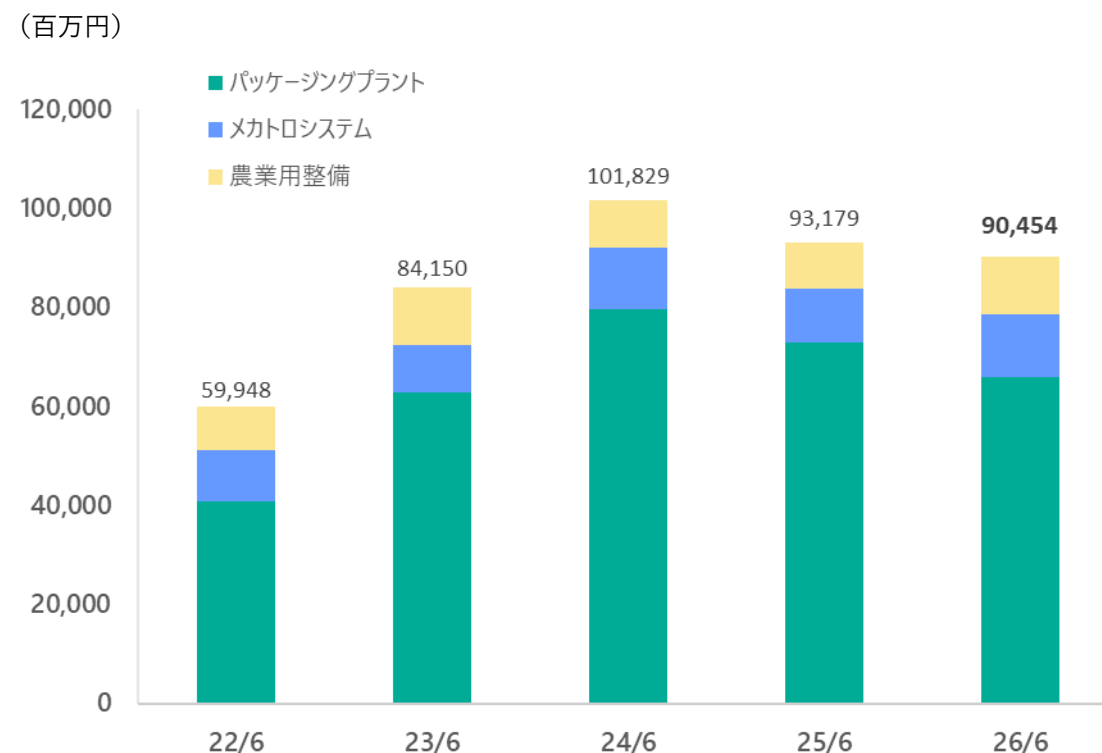
受注高・受注残高

- ✓ 受注高は前期比10.4%増加（パッケージングプラントが同5.2%増、メカトロシステムが同12.5%増、農業用設備が同38.9%増）
- ✓ 受注残高は前期比2.9%減少（パッケージングプラントが同9.6%減、メカトロシステムが同16.2%増、農業用設備が同26.3%増）

受注高



受注残高



連結貸借対照表

- ✓ 総資産は1,732億円（前期比138億円の増加）
- ✓ 売上債権及び契約資産、有形固定資産が増加
- ✓ 投資その他の資産（投資有価証券、退職給付に係る資産）も時価評価などにより増加

(百万円)	2025年6月末	2026年6月末	増減額
流動資産	105,574	111,218	5,644
現金及び預金	45,579	44,008	▲1,571
売上債権、契約資産	38,209	46,266	8,056
棚卸資産	17,392	17,135	▲256
その他	4,393	3,808	▲584
固定資産	53,852	62,061	8,209
有形固定資産	43,810	48,418	4,608
無形固定資産	538	496	▲42
投資その他の資産	9,502	13,146	3,643
資産合計	159,426	173,280	13,854

* 売上債権=受取手形+電子記録債権+売掛金

* 棚卸資産=製品+仕掛品+原材料及び貯蔵品

(百万円)	2025年6月末	2026年6月末	増減額
流動負債	42,723	45,289	2,566
仕入債務	19,408	17,530	▲1,877
短期借入金	907	863	▲44
契約負債	11,314	12,451	1,137
その他	11,092	14,443	3,351
固定負債	8,773	8,899	126
長期借入金	2,789	1,925	▲863
その他	5,984	6,974	989
負債合計	51,496	54,188	2,692
自己資本	107,921	119,083	11,161
非支配株主持分	8	8	0
純資産合計	107,930	119,091	11,161
負債純資産合計	159,426	173,280	13,854

* 仕入債務=仕入手形及び買掛金+電子記録債務

* 自己資本=純資産合計-非支配株主持分

連結キャッシュ・フロー計算書

- ✓ 営業CFは52億円、投資CFは▲107億円、財務CFは▲36億円
- ✓ 投資CFにおいて、有形固定資産の取得として42億円を支出。また、定期預金の預入・払戻の差額として70億円を支出

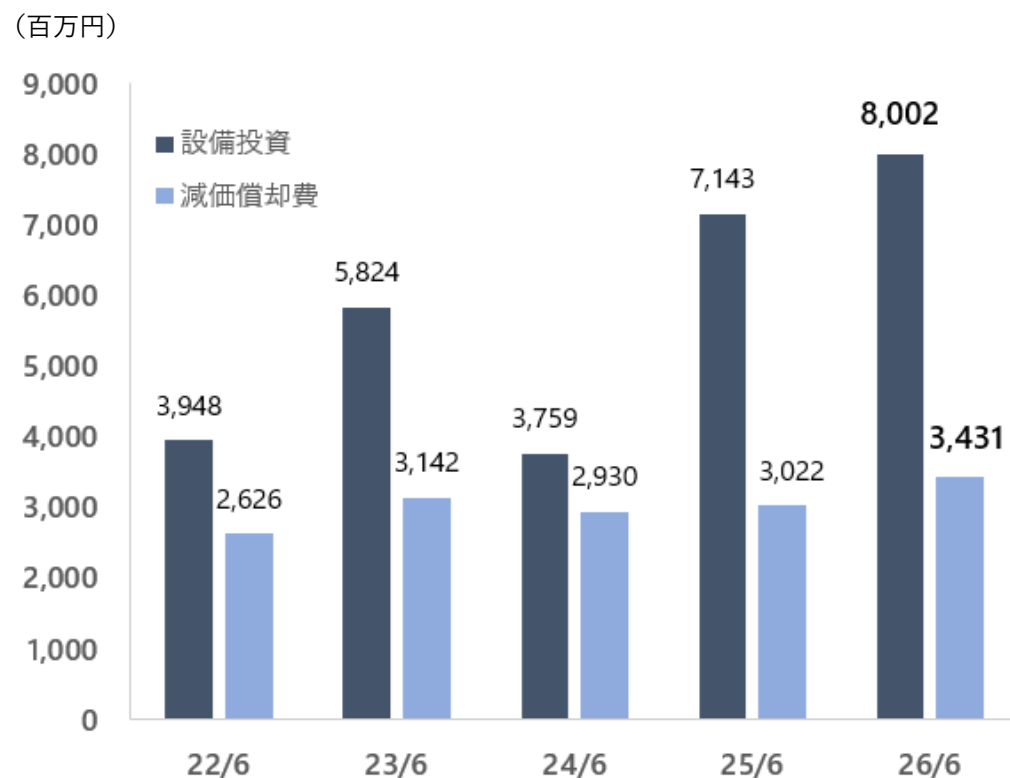
(百万円)	2025年6月期	2026年6月期	増減額
現金及び現金同等物の期首残高	46,894	45,291	▲1,603
営業活動によるキャッシュ・フロー	9,069	5,280	▲3,788
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲6,619	▲10,740	▲4,121
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲3,812	▲3,605	207
現金及び現金同等物の期末残高	45,291	36,700	▲8,590

(百万円)	2025年6月期	2026年6月期	増減額
フリーキャッシュ・フロー	2,449	▲5,460	▲7,909

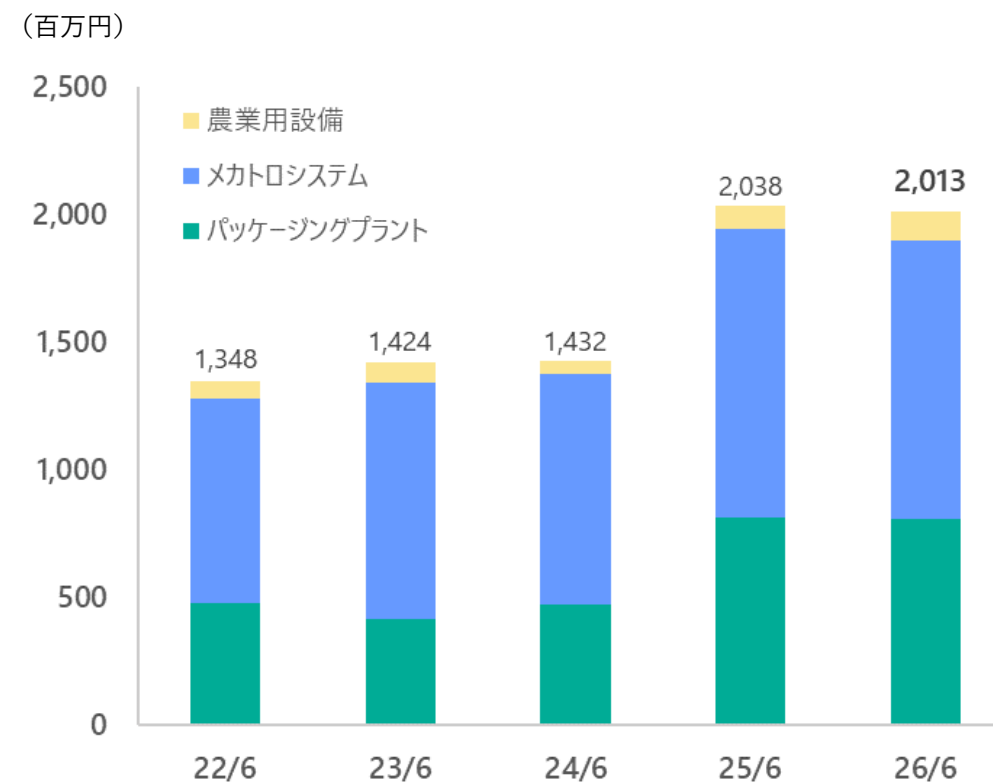
設備投資・減価償却費・研究開発費

- ✓ 設備投資は、当社 森本第3機械工場の完成および建設中の3つの工場において契約時金等を支出
- ✓ 研究開発費は前期から微減

設備投資・減価償却費



研究開発費



03

中期経営計画2027の進捗と展望

中期経営計画2027の位置づけ “シブヤ上げ潮戦略”

中期経営計画 2027

2024年 売上高実績

1,154億円



2027年 売上高目標

1,500億円

創業の原点「喜んで働く」を承継し、
ダントツ製品でお客様の繁栄をサポートします

2030年ビジョン

生活に不可欠な
業界の製造を支える
リーディングカンパニー

2030年 売上高目標

2,000億円

ビジョン達成への 4つの方針

新製品開発



イノベーションを創出し、チャレンジ精神と独創的な先端
技術を具現化した「ダントツ製品」を開発

新市場開拓



健康と衛生意識の向上を背景に海外市場の需要拡大
への対応と新規開拓から、人々の健康維持に貢献

新事業創出



顧客ニーズへの対応の積み重ねやパートナーシップ、さらに
必要に応じてM&Aを活用し、事業領域を拡大

環境への貢献



限りある資源の消費削減に寄与する製品・サービスの
開発・提供を通じて、持続可能な社会に貢献

外部環境の見通し（飲料市場／医薬品市場）

市場	外部環境の見通し	対象事業
飲料市場	✓ PETボトル飲料のグローバル市場は、2033年にかけて年平均5%程度の成長が続くと見込まれる ● 北米では、健康志向の高まりから低酸性飲料*の需要増加 ● 中国や東南アジアでは、所得水準の高まりとともにPETボトル飲料の需要増加 ● インド・中東・中南米地域など、乳飲料のPETボトル化が増加傾向 ✓ 飲料市場の拡大を背景に、環境対応によるボトルの軽量化に向けた設備投資が拡大し、無菌充填システムの需要も長期的に拡大が見込まれる ✓ 米国の関税政策や中東情勢の混乱により、大型投資の中止・延期や工場建設の長期化の影響が一部みられたものの、受注環境は回復傾向	パッケージング プラント事業  * 低酸性飲料とは、乳飲料や茶系飲料などのpHが4.6以上の飲料で、細菌が繁殖しやすく腐敗しやすいため、厳格な品質管理が求められる。
医薬品市場	✓ 医薬品市場は、難病治療の無菌注射剤の新薬開発の増加に加え、バイオ関連産業の育成や医薬品の安定供給を目的とした、国や自治体による補助金制度が活発であり、積極的な設備投資の継続が見込まれる	パッケージング プラント事業 

外部環境の見通し（透析市場／半導体市場）

市場	外部環境の見通し	対象事業
透析市場	✓ 北米や中国、インド中心に透析患者が増加傾向であり、世界の透析市場は拡大が見込まれる <国内> ● 透析患者数は2021年をピークに減少傾向 ● 2026年度の薬価・診療報酬の引下げ決定を受け、病院の設備投資意欲に慎重な姿勢が見られており、透析装置の新規導入台数は減少する見込み <海外> ● 透析患者数は年率6～7%で増加傾向 世界の透析市場規模推計（億米ドル） 2025 2034 （出典）Fortune Business insights（2026.1.22）	メカトロシステム事業
半導体市場	✓ AIサーバーとデータセンターを中心とした先端半導体や光通信モジュールの需要増加が見込まれる ✓ パワー半導体需要は、EV需要の回復遅れ等の影響により、足元ではやや減速感がある。一方、2027年以降は、EV需要の回復や窒化ガリウム（GaN）など新素材の量産化・低価格化による用途拡大により、需要増加が見込まれる データセンター用先端半導体（億米ドル） 2025 2026 2027 （出典）OMDIA	メカトロシステム事業

外部環境の見通し（農業市場）

市場	外部環境の見通し	対象事業
農業市場	✓ 各国際協定により、多くの農産物が関税撤廃の対象となっており、今後、国内産地の競争力の低下が懸念されるが、生産性向上による競争力強化のため、国策として補助金による支援がなされている。 ✓ 農業従事者の高齢化や担い手不足を背景とした大規模化など、農業の構造改革が今後もより一層加速することが見込まれる ✓ スマート農業関連では、2024年に「スマート農業技術活用促進法」が施行され、2025年には、地域農業構造転換支援事業の補助率が引き上げられるなど、スマート農業推進に向けた動きがみられる	農業用設備 事業

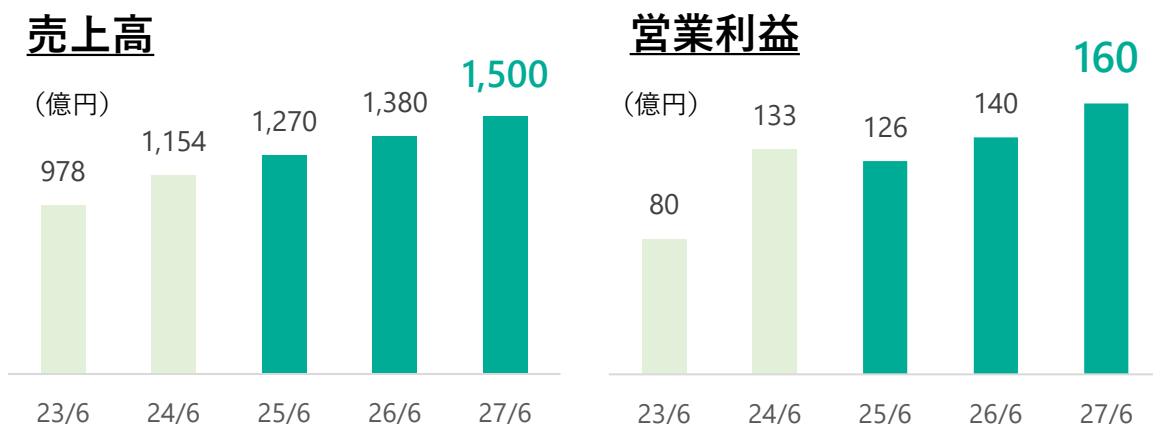


中期経営計画2027の概要（数値目標）

- ✓ 2027年6月期に売上高1,500億円、営業利益160億円を目標
- ✓ 戦略目標として、セグメント別売上高および海外売上高を設定

※ 以下、25/6期～27/6期の数値は全て、中期経営計画2027発表時（2024年8月26日）の計画値

中期数値目標

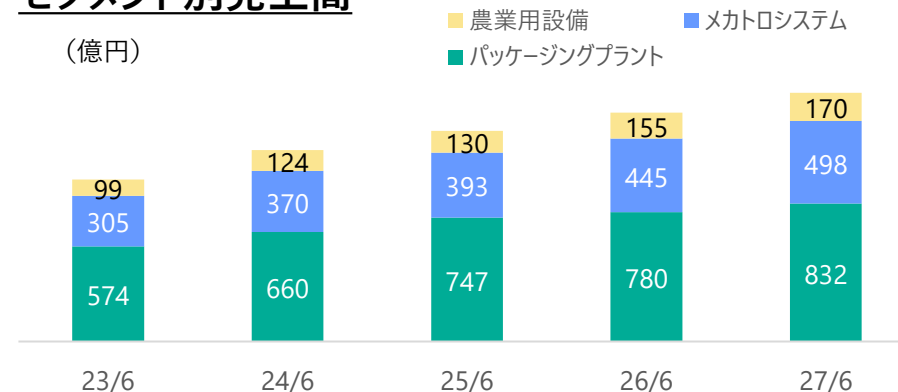


資本効率/株主還元

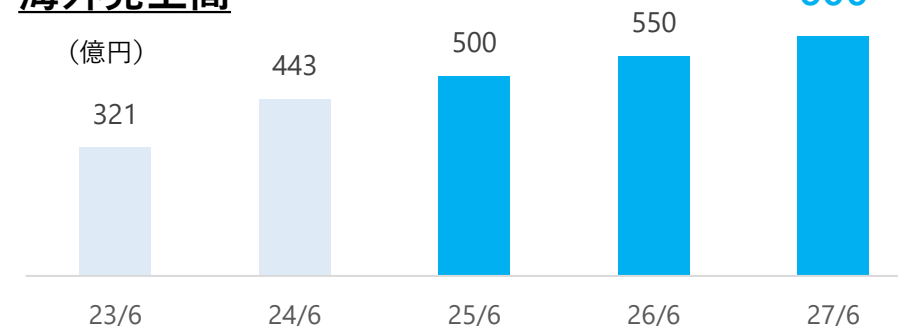


戦略目標

セグメント別売上高



海外売上高



中期経営計画 2年目の数値実績

- ✓ 売上高・営業利益とも中期数値目標は若干下回った
- ✓ 戦略目標は、パッケージングプラント事業は目標を上回ったものの、メカトロシステム事業、農業用設備事業が目標を下回った
- ✓ 海外売上高は戦略目標を達成

中期数値目標

中期 数値目標	指標	2025年6月期 (実績)	2026年6月期 (実績)	2027年6月期 (予想)	2027年6月期 中計最終年度目標
	売上高	1,290億円	1,356億円	1,500億円	1,500億円
	営業利益	137億円	130億円	160億円	160億円
	ROE	9.6%	9.0%	-	10%以上
	株主還元 (配当性向)	26.1%	27.1%	-	配当性向30%以上 機動的な自社株買い

戦略目標（売上高）

中期 数値目標	指標	2025年6月期 (実績)	2026年6月期 (実績)	2027年6月期 (予想)	2027年6月期 中計最終年度目標
	パッケージング プラント	800億円	840億円	874億円	832億円
	メカトロシステム	377億円	389億円	482億円	498億円
	農業用設備	111億円	125億円	144億円	170億円
	海外売上高	533億円	553億円	600億円	600億円

中期経営計画 2年目の進捗と展望（新製品開発）

パッケージングプラント事業

ZHAプロジェクトの進展（PETボトル飲料無菌充填システム）

- ✓ ZHAプロジェクトにより複数のユニットを標準化し、大幅なコスト削減、納期短縮を実現
- ✓ 同プロジェクトの一環として、新型2段殺菌システムを複数台出荷済みであり、更なる拡販を展開

今後の
展望

省スペース、短工期の提案が好評
さらなる受注獲得に期待

2段殺菌方式の無菌充填システム



ボトリングシステムにおけるZHAプロジェクト

- 2023年1月、全員本気でアセブビジネスの競争力強化に取り組む組織横断的な「ZHAプロジェクト」を発足
- 従来の設計だけのコスト削減に対し、本PJは、設計・生産・営業・サービスの4部門がCD(コスト破壊)に取り組む
- マーケティング、提案改善、ものづくり変革、CS強化など多方面からみたシステム設計見直しにより、部品削減・工数削減・納期短縮・工事短縮などを実現

ライン式ウェイトフィラ・キャップ（食品・清酒用ボトリングシステム）

- ✓ インハウスショー（2025年5月）では、小ロット多品種生産のニーズにマッチした製品として好評を獲得
- ✓ その後、日本酒などの酒類メーカーや食品メーカーから受注を順次獲得

今後の
展望

中低速マルチラインでのソリューション提案に加えて、包材分野の新規開拓を強化

ライン式ウェイトフィラ・キャップ



中期経営計画 2年目の進捗と展望（新製品開発）

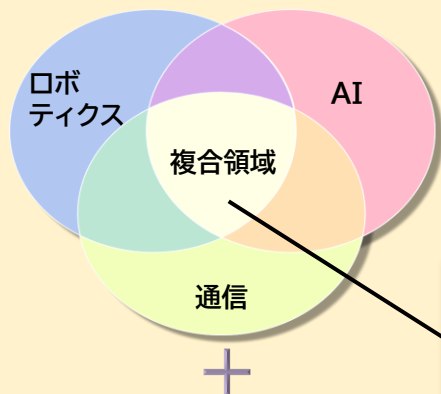
パッケージングプラント事業

次世代プラットフォーム「SHoPS」

SHoPS : Shibuya Holistic Platform System

- ✓ IT/OT/フィジカル領域の融合による次世代プラットフォーム生産ライン
- ✓ 人手不足や品質確保など製造現場の課題解決
- ✓ ダウンタイムゼロ・無人型スマートファクトリーの構築
- ✓ すでに顧客企業へ納品済み。2030年の無人化ライン実現をめざす

SHoPSの要素技術マップ



- フィジカルAI
- デジタルツイン
- SDA(Software Defined Automation)

産業機械・設備システム

IT/OT/フィジカルの垂直統合



中期経営計画 2年目の進捗と展望（新製品開発）

パッケージングプラント事業

MIRAIテックラボの構築

社内に「MIRAIテックラボ」（次世代先端技術R&D）を設置予定

産業設備の進化を実現するため、既存技術の改善にとどまらず、
先進的な要素技術の複合が不可欠

次世代プラットフォーム「SHoPS」のフィジカル領域を主体とした
先進的な要素技術を複合的に実証し、お客様と共に価値創造する



MIRAIテックラボのイメージ



無人型ラインの実現

- ・製造ラインシミュレーション
- ・SDAへの展開
- ・6GネイティブAI・光通信の実装
- ・エンベデッドAI(エッジAI)
and more ..

自律化とデジタルツイン

- ・ヒューマノイドロボットの導入
- ・ローカル5Gの実装
- ・クラウドプラットフォームの稼働
- ・フィジカルAI
and more ..

可視化と基盤構築

- ・稼働分析サービスによる可視化
- ・充填予測サービスによるCBM支援
- ・AI作業支援サービスによる現場支援
- ・AMR、協働ロボットの現場実装
and more ..

中期(2029-2030年)

短期(2027-2028年)

現在(2025-2026年)

中期経営計画 2年目の進捗と展望（新製品開発）

メカトロシステム事業（半導体製造装置）

半導体市場では、AIなどの急速な進展により、求められる技術が多様化。当社のメカトロシステム事業はボンダ装置やテストハンドラ、超音波洗浄装置等の開発を通じて、こうしたトレンドに対応している

先端パッケージ用レーザボンダ、光トランシーバー用ボンダ

- ✓ 先端パッケージ用レーザボンダは、韓国大手顧客に納品済
- ✓ 光トランシーバー用ボンダは、光通信市場の拡大およびデュアルヘッド装置の上市により、複数の顧客から受注獲得

今後の
展望

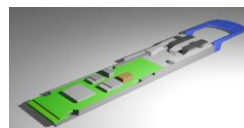
光通信関連製品に対応するボンダの開発を
継続し、市場での優位性を確保する



先端パッケージ用レーザボンダ



光トランシーバー用ボンダ



光通信用トランシーバ

天吊リワイヤボンダ

大型基板への対応

- ✓ 従来のワイヤボンダから構造を見直すことで、大型基板へのボンディングなどが可能に（XYステージを天井部に配置）
- ✓ 同製品への注目度は高く、顧客から多数の問い合わせを獲得

今後の
展望

2027年1月以降の販売開始に向けて
装置完成に取り組む



天吊リワイヤボンダ



大型基板

Cuピラー搭載機

大型基板、3Dパッケージへの対応

- ✓ 300mmの大型基板や 3Dパッケージに対応したCuピラー搭載機を開発
- ✓ 26/6期に実機の試作が完成

今後の
展望

27/6期は、パイロットラインの構築と
量産対応に取り組む



Cuピラー搭載機



Cuピラー

中期経営計画 2年目の進捗と展望（新製品開発）

メカトロシステム事業（工作加工機）

高機能ガラス向けレーザ微細加工システム

- ✓ 4JET社（ドイツ）と提携し、高機能ガラス向けレーザ微細加工システムを開発
- ✓ 2025年12月から、日本国内およびアジア地域で販売活動を開始

今後の
展望

光通信デバイスやAR/VRガラスなどガラス加工の需要増加に
備え、テスト加工の態勢を整備。初号機の受注を目指す

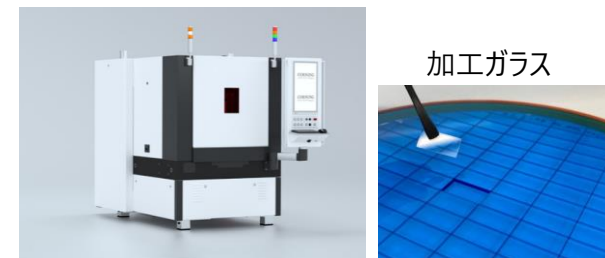
強み

当社：加工システム構築技術およびアフターサポート
4JET社：高機能ガラス加工技術

対象市場

半導体市場
自動車市場
光学レンズ市場など

高機能ガラス向けレーザ微細加工システム

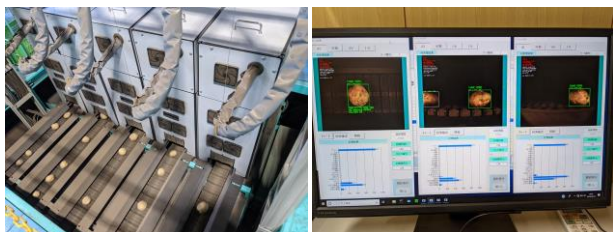


農業用設備事業

馬鈴薯向けAI選果システム

- ✓ 食用と比較して厳密な選別が求められる種子馬鈴薯の不良選別を独自のセンサーとAI技術により実現
- ✓ 農業協同組合から受注を獲得

馬鈴薯向け
AI選果システム



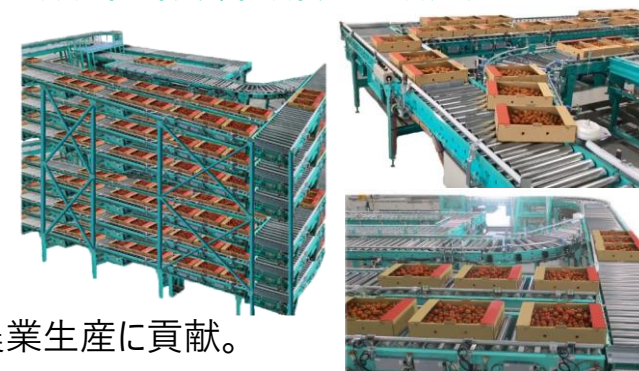
スマートハイブリッド・ストレージシステム

- ✓ 従来のケース自動倉庫の代替として、低コスト・高密度貯留・高能力を特徴とした選果箱詰め製品の一時貯留システムを開発
- ✓ 多品種・小ロット品の効率的な貯蔵・出荷を実現し、複数の農業協同組合から受注を獲得

今後の
展望

「スマート農業」を先導し、持続可能な農業生産に貢献。
政府の成長戦略17分野に含まれるフードテック分野での受注獲得を図る

スマートハイブリッド・ストレージシステム



中期経営計画 2年目の進捗と展望（新市場開拓）



パッケージングプラント事業

- ✓ 米国では、オハイオ州に続き、26/6期にニューヨーク州にサービス拠点を設置
- ✓ 導入からアフターサービスまで一貫した顧客対応力などが評価され、大手乳業メーカーからリピート受注を獲得



今後の
見通し

現地での受注実績を活かし、
更なる受注拡大を図る

- ✓ インド（ベンガルール）に現地法人の立ち上げを予定（2026年9月）
- ✓ 現地企業から無菌アイソレータを受注。無菌充填システムの商談中



今後の
見通し

現地開催の展示会などを通
じて本格的な営業活動
を加速

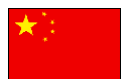
メカトロシステム事業（医療機器）

米国



- ✓ 米国FDA認可を取得し、北米向け出荷を本格化
- ✓ 新製品のFDA登録準備中（2027年2月から販売予定）

中国



- ✓ 中国は国策により医療機器の現地生産を推進
- ✓ 現在は、製品および工場の登録準備中（2027年9月より現地生産を開始予定）

欧州

- ✓ 欧州医療機器規則（MDR）への移行が完了
- ✓ MDR下でのCEマーク適合装置の拡販を図る

その他

- ✓ アジア・アフリカなど新興市場にも拡販可能な汎用機として、新商品を投入（2026年7月）

今後の
見通し

新工場が2026年11月に完成し、2027年1月より稼働開始。
増産への対応および自動化による生産効率の向上を図る

中期経営計画 2年目の進捗と展望（新事業創出）

パッケージングプラント事業

固液混合・分散システム

- ✓ ボトリングシステムで培った技術を応用し製品化
- ✓ リチウムイオン電池製造分野での大型案件に加えて、大手
接着材メーカーからパイロットシステムの受注獲得

今後の
見通し

機能性接着剤分野では量産ラインの受注獲得を図る。
全固体電池、太陽電池用ペースト（ペロブスカイト）分野に
水平展開

固液混合・分散システム



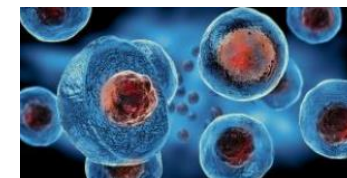
リチウムイオン電池



車両・建材用 接着剤



幹細胞（イメージ）



細胞バンク用タンク



自家細胞バンク向け自動細胞培養システム

- ✓ ロットによる変動が大きく自動化が難しいとされる「自家細胞」を
「無人運転」で「大量生産」可能な世界初のシステム
- ✓ タイ MEDEZE社向け受注案件は、2026年内に立ち上げ予定

今後の
見通し

細胞バンク事業を展開するユーザーへの拡販に加え、
細胞の大量製造を目指すユーザーへの拡販も図る

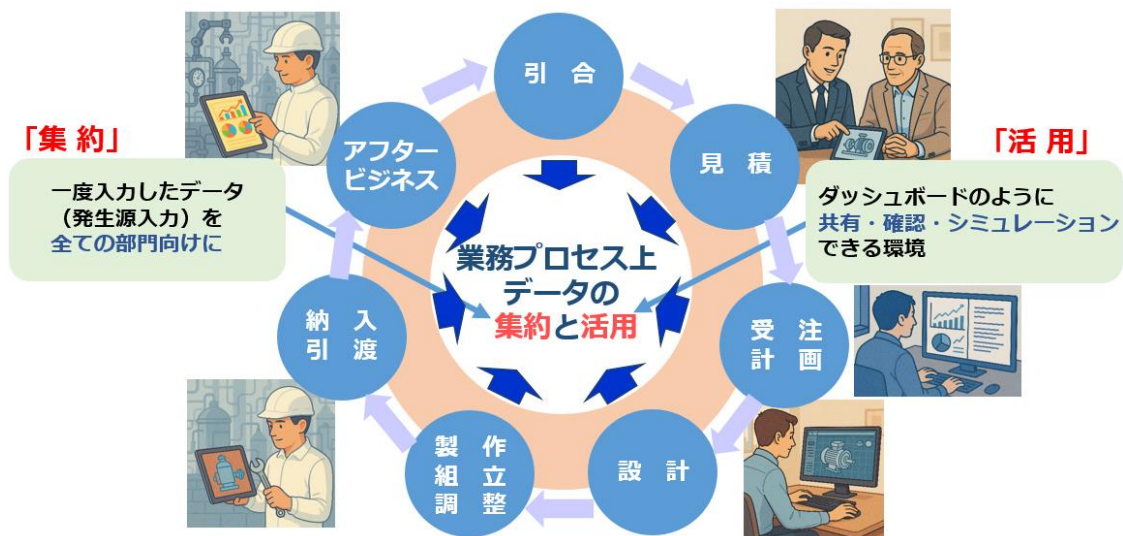
自動細胞培養システム



中期経営計画 2年目の進捗と展望（DX化）

一気通貫ものづくりDXプロジェクト

- ✓ 先行していた客先向けDXに加え、一気通貫ものづくりDXプロジェクトとして社内DXを推進するプロジェクトを発足（2024年4月）
- ✓ 「見積→受注→設計→製造→納入→サービスサポート」を連携し、全体最適を目指すDXを推進
- ✓ 2026年6月期では、以下の施策を実施
（年間**50**万枚のペーパレス化および年間約**20,000**hの効果を見込む）
 - 引合情報の精度向上および生産部門での情報活用
 - 見積プロセスの見直し
 - 見積シミュレーションのプロトタイプ構築
 - メンテナンスパッケージングサービスの検討
 - 外部ソリューションと社内開発の連携
- ✓ 2027年6月期に展開予定の施策
納期問合せプロセスの自動化 / 生産計画シミュレーション環境の構築



情報



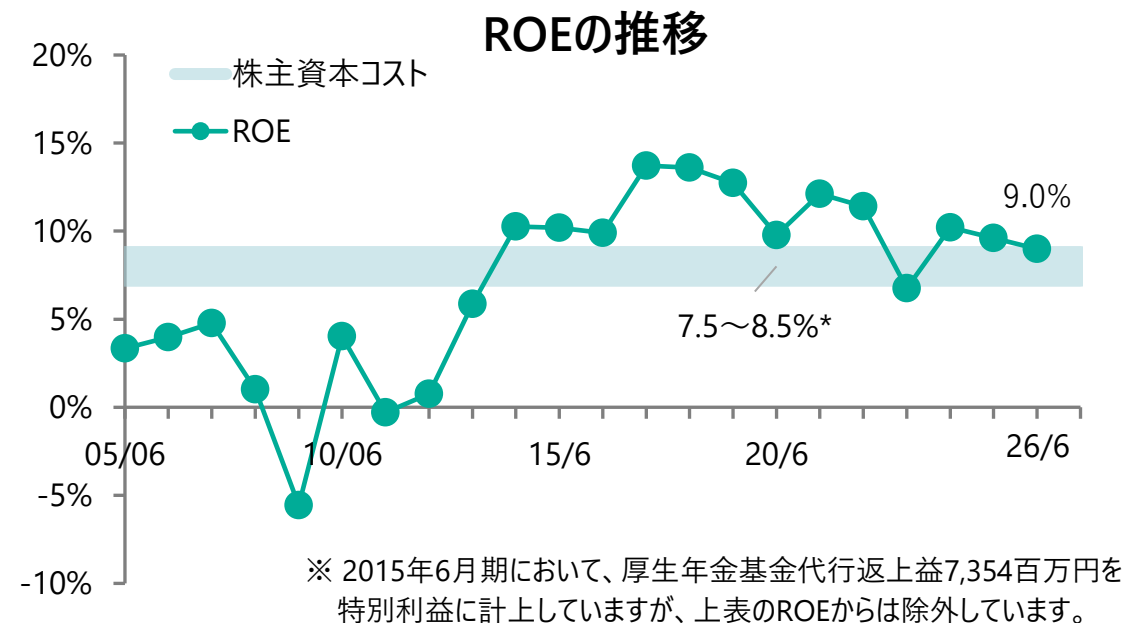
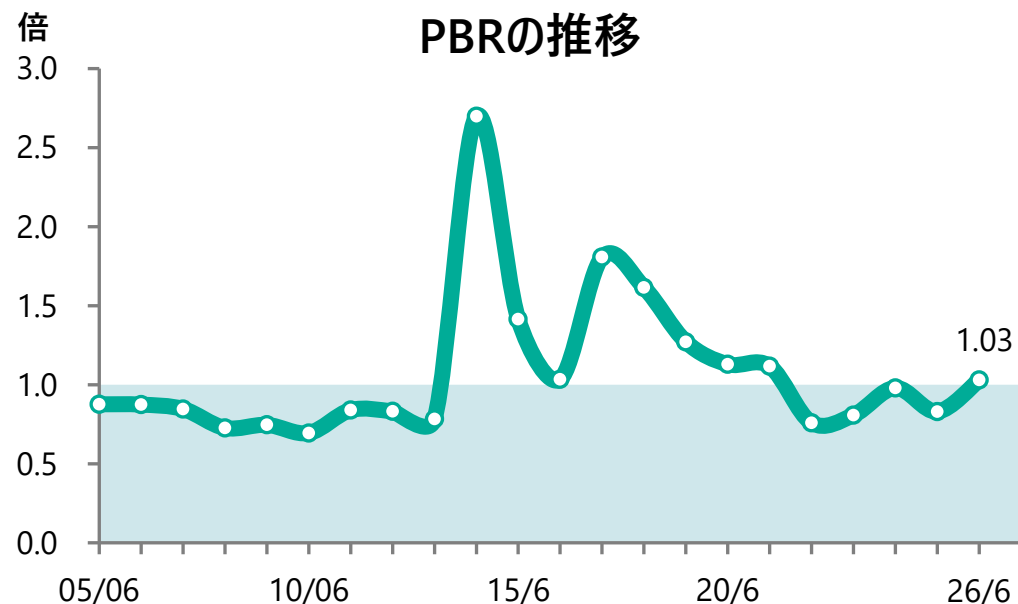
引合動向／受注仕様
各生産部門の中日程

生産計画シミュレーション



中期経営計画 2年目の進捗と展望（資本コストや株価を意識した経営）

- ✓ PBRは1.03。資本市場での更なる評価向上を目指す。



PBR向上策

- ✓ 中期経営計画の着実な遂行
- ✓ 継続的な技術革新 + 戦略的な成長投資による長期持続的な収益向上
- ✓ 当社の魅力が伝わる発信方法の模索 + 発信力の向上
- ✓ 長期持続的な成長の源泉となる収益力向上
- ✓ 戦略的な成長投資 + 安定的かつ継続的な株主還元の実施



ブランディング戦略プロジェクトの一環として、2026年6月にコーポレートサイトをリニューアル。IRサイトについても、開示情報を整理・拡充

中期経営計画 2年目の進捗と展望（コーポレートサイトのリニューアル）

- ✓ ブランディング戦略プロジェクトの一環として、2026年6月にコーポレートサイトをリニューアル
- ✓ 閲覧する視点から「顧客向けPR」「投資家向けIR」「採用向けHR」にカテゴリーを整理
- ✓ 従来の一方向の発信を見直し、SNSを通じてコミュニケーションを重視した相乗効果を図る



新ホームページのカテゴリー

- ・澁谷工業とは
- ・製品 & ソリューション
- ・導入事例
- ・コラム
- ・株主・投資家情報
- ・サステナビリティ
- ・採用情報（社員インタビュー、プロジェクトストーリー）
- ・企業情報

PR

IR

HR



YouTube



note



SNS

中期経営計画 2年目の進捗と展望（キャッシュアロケーション方針）

- ✓ 投資は計画通りに進行中。中期経営計画最終年度に向けて投資計画に大きな変更はなし

キャッシュアロケーション（25/6～27/6期）の概要



※ 運転資金250億円を控除後

次期中期経営計画の投資イメージ

現時点では、
パッケージングプラント事業の更なる
生産能力向上などを目的に、
開発拠点、生産拠点の再構築を検討

中期経営計画 2年目の進捗と展望（生産増強投資）

4つの新工場

- ✓ 4工場とも2026年内に竣工予定。お客様への迅速かつ安定の製品供給を実現。

工場名	対象事業	対象製品	投資予定額	竣工予定時期
SX森本工場	パッケージングプラント	ボトリング 充填設備	107億円	2026年11月
森本第3機械工場			17億円	2026年6月 (竣工済)
能美第2機械工場			45億円	2026年9月
医療機若宮工場B棟	メカトロシステム	医療機器	35億円	2026年10月

新工場の役割

DX化、部品加工の合理化、新組立手法の導入
(部品リードタイム短縮とスマート工場を構築)

ロボット技術導入など自動化を推進し、生産効率UP
(年間3万台生産体制へ)



SX森本工場（2026年7月1日時点）



医療機若宮工場B棟（2026年7月1日時点）

中期経営計画 2年目の進捗と展望（ESG戦略）

E (環境)

重点課題

- ✓ CO₂排出量削減
- ✓ 販売する商品
- ✓ 自社事業所と工場

CO₂排出量削減目標 (2030年)

2020年度比
30%削減

中期経営計画2027の進捗

- ✓ 26/6期は、森本第3機械工場に太陽光発電設備を設置
- ✓ 27/6期は、既存工場（EB森本）、3つの新工場（2026年完成）に太陽光発電設備を設置予定

年間CO₂削減量（下記5つの工場） 合計 約1,222t

(年間)	EB森本工場	SX森本工場	森本 第3機械工場	能美 第2機械工場	医療機若宮B棟
発電量	約564MWh	約1,188MWh	約313MWh	約509MWh	約232MWh
CO ₂ 削減量	約250t	約515t	約136t	約221t	約100t

森本第3機械工場



- ✓ 環境に貢献する当社製品の改善・開発

当社製品	ユーザーにおける削減効果
飲料無菌充填システム	非加熱無菌水製造システムの開発により、蒸気使用量、エネルギーコストを70%削減
過熱水蒸気式焼成機“JESTOS”	エネシールド導入により、焼成室内の熱流出ロスを40%削減

中期経営計画 2年目の進捗と展望（ESG戦略）

重点課題

中期経営計画2027の進捗

S (社会)

- ✓ 人財能力開発
- ✓ ダイバーシティ推進
- ✓ 働きがいある職場づくり

- ✓ 女性総合職採用の拡大
- ✓ 一般事務職社員の総合職転換制度創設（2025年10月）
- ✓ インドNITTE大学と連携によるグローバル高度人材の継続採用
- ✓ 短期海外研修制度（GLP：Global Learning Program）によるグローバル人財育成
- ✓ 社員向け福利厚生の拡充
- ✓ ブランディング戦略プロジェクト採用分科会の情報発信（SNSによる情報発信、コーポレートサイト「採用情報」の刷新）

	(累計)
女性総合職採用数	49名
総合職転換女性社員数	89名
NITTE大学からの採用数	56名
GLP経験者数	23名

G (ガバナンス)

- ✓ 取締役会の多様性
- ✓ 取締役会の機能強化
- ✓ 役員報酬制度の改定
- ✓ コンプライアンスの徹底
- ✓ リスクマネジメント強化

- ✓ 女性取締役の就任（2024年9月）
- ✓ 取締役へのアンケート調査による取締役会の実効性の確認
- ✓ 取締役および監査役のスキルマトリクスの開示
- ✓ ディスクロージャーポリシーの作成・公表（2026年4月）

04

2027年6月期予想および取り組み

2027年6月期予想

✓ 増収増益を見込み、中期経営計画の数値目標を達成する予想

(百万円)	2026年6月期 (実績)		2027年6月期 (予想)		増減額 b-a	増減率 (b-a)/a
	金額 a	売上比 -	金額 b	売上比 -		
売上高	135,613	100.0%	150,000	100.0%	14,386	10.6%
営業利益	13,081	9.6%	16,000	10.7%	2,918	22.3%
経常利益	13,560	10.0%	16,200	10.8%	2,639	19.5%
親会社株主に帰属する 当期純利益	10,223	7.5%	11,000	7.3%	776	7.6%
EPS (円)	369.5		397.6			

戦略目標の見通し

- ✓ 全てのセグメントで増収となる予想
- ✓ 海外売上高は、パッケージングプラント事業において北米が増加すると予想

(百万円)	2026年6月期 (実績)	2027年6月期 (予想)	増減額	増減率
パッケージングプラント（売上高）	84,041	87,400	3,358	4.0%
メカトロシステム（売上高）	38,997	48,200	9,202	23.6%
農業用設備（売上高）	12,574	14,400	1,825	14.5%
海外売上高	55,342	60,000	4,657	8.4%

2027年6月期の取り組み

新製品開発

- ✓ 次世代プラットフォーム「SHoPS」の展開と、フィジカルAI導入に向けた先進的な要素技術の検証
- ✓ 光通信用ダイボンドの高速化対応、Cuピラー搭載機の量産化対応
- ✓ 生産者・農協や流通・加工業者までシームレスなデータ連携を可能とする“シブヤコネクト”の開発

新市場開拓

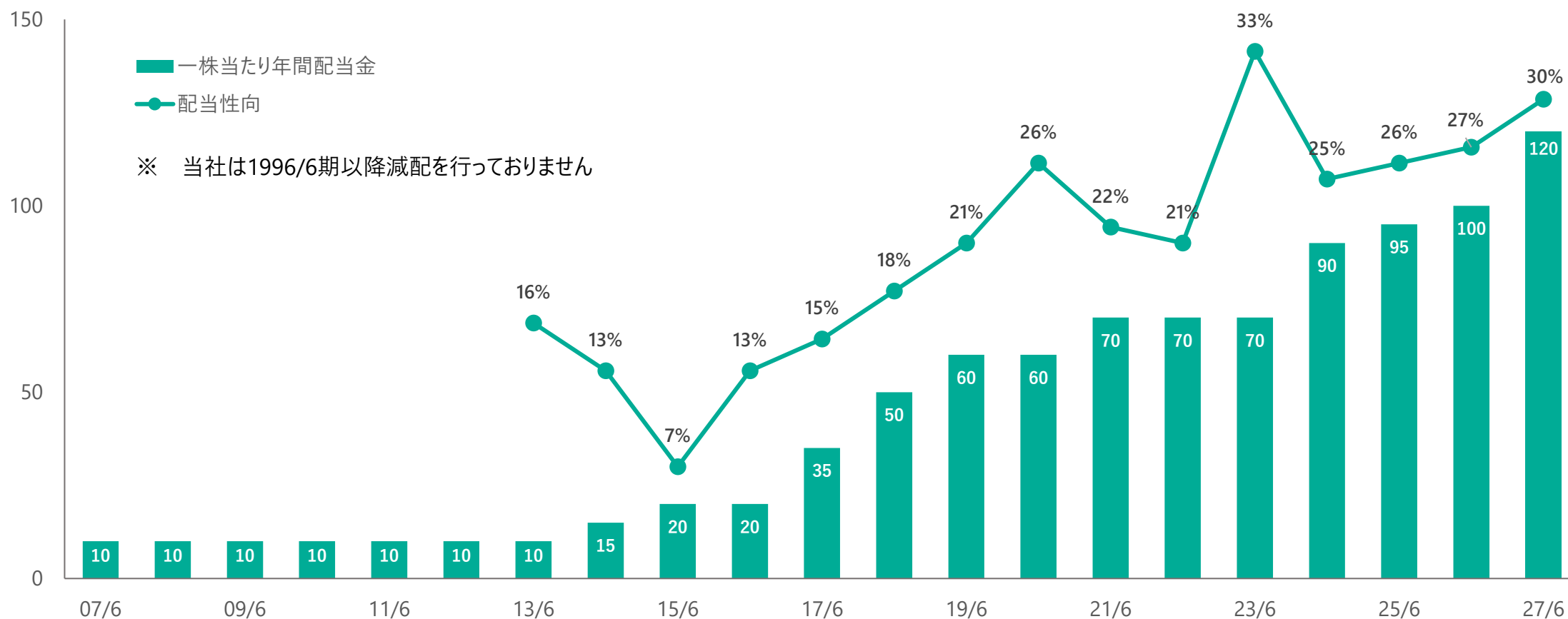
- ✓ 飲料無菌充填システム、半導体製造システムにおいて、新たなパートナーシップによる新市場の大手ユーザーを開拓
- ✓ 飲料無菌充填システムをインド、バングラデシュなどの南西アジアへ拡販
- ✓ 製薬設備および再生医療システムを北米、韓国・台湾などのアジアへ拡販
- ✓ 過熱水蒸気式焼成機を韓国などのアジアへ拡販

新事業創出

- ✓ 固液混合・分散システムを全固体電池分野、太陽電池用ペースト（ペロブスカイト）に展開
- ✓ 自家細胞バンク向け自動細胞培養システムのユーザー層の拡大
- ✓ 肝臓再生療法の治験および早期承認手続きを推進
- ✓ 国内外のM&A候補の検討を継続

株主還元方針

- ✓ 積極的な成長投資と健全な財務体質を維持しつつ、長期持続的な成長を通して、ステークホルダーに対しバランスよく還元します
- ✓ 2027年6月期は中間配当として1株あたり55円、期末配当として65円、年間120円を予定。配当性向は30%を見込む
- ✓ 2027年6月期以降も、安定的かつ継続的な株主還元を実施します
- ✓ 自己株式の取得を機動的に実施します



05

Appendix

Our Business

私たちの市場領域 - お客様の高品質な製品のために

飲料・日用品



ボトリング充填設備

- 多品種兼用充填包装システム
- 飲料無菌充填システム



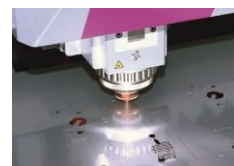
ろ過滅菌・調製設備

- アセプティックモジュール
- 飲料製造無菌水供給設備



半導体製造設備

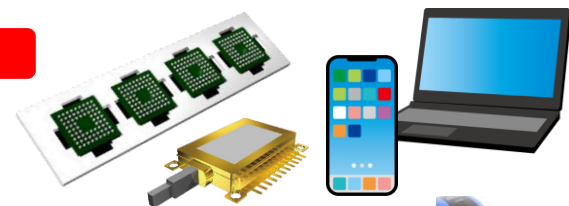
- 半導体実装装置
- LED検査装置
- 超音波洗浄装置



工作加工設備

- レーザ切断加工機
- ウォータージェット切断加工機
- 高圧洗浄システム
- 油圧プレス機
- 固液混合・分散システム

メカトロニクス



医薬品製造設備

- 注射剤無菌製造システム
- ワクチン製造システム
- アイソレータ滅菌システム



再生医療

- 細胞培養アイソレータ
- 自動細胞培養システム
- バイオ3Dプリンター
- バイオマテリアル



医療機器

- 透析装置
- レーザ皮膚治療器

ライフサイエンス



農業選別設備

- 選果選別システム
- 果実糖度分析システム
- 土壌分析システム



食品包装加工設備

- カップめん充填シール機
- 納豆充填シール機
- アイスクリム包装機
- 過熱水蒸気式焼成機



農業・食品加工

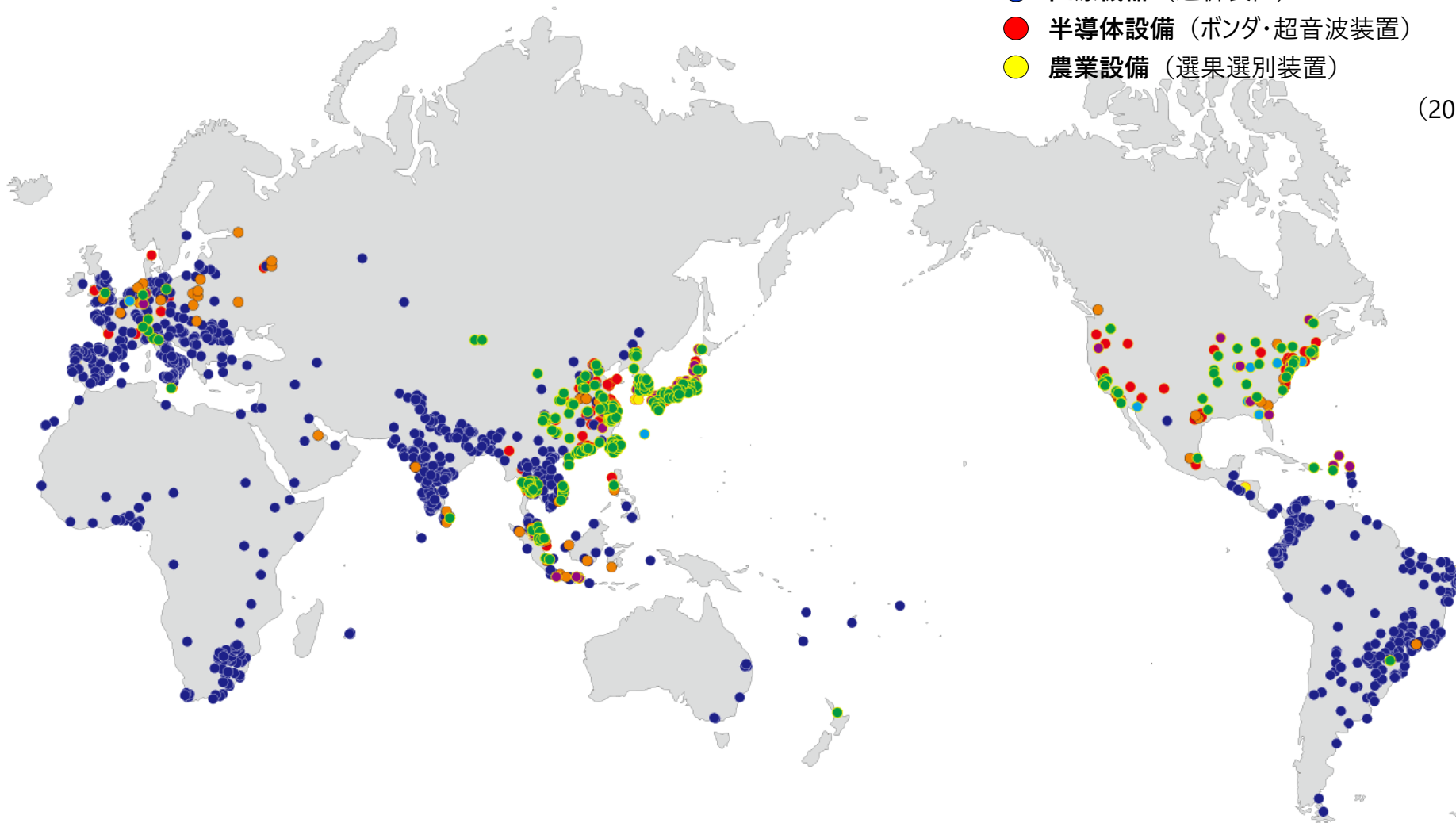


Global Activities 私たちの活動範囲

世界116カ国へシブヤのシステムを納入しております

● ボトリング（飲料・食品・日用品・化粧品）	約 9,900 台
● 製薬設備（注射薬・ワクチン）	約 1,500 台
● 再生医療（細胞培養）	約 200 台
● 包装設備（食品）	約 5,500 台
● 医療機器（透析装置）	約 210,900 台
● 半導体設備（ボンダ・超音波装置）	約 15,600 台
● 農業設備（選果選別装置）	約 700 台

(2000年～2026年納入)



当社製品（パッケージングプラント事業）

<パッケージングプラント事業>

当社製品	当社製品の優位性
ボトリング充填設備 ろ過滅菌・調製設備 ✓ 多品種兼用充填包装システム ✓ 飲料無菌充填システム ✓ アセプティックモジュール ✓ 飲料製造無菌水供給設備 ✓ 資材供給自動化システム	ラインータル OEE 70%以上 無菌保持時間 (連続操業時間) 240時間 ※OEEとはOverall Equipment Effectiveness（総合設備効率）の略 ✓ 安定稼働 ✓ 迅速丁寧なアフターサポート、細かなユーザーニーズへの対応力 ✓ 世界初のEB殺菌技術による商業生産 ✓ 豊富なバリエーションへの対応力（容器形状など） ✓ GMP準拠の製薬設備システムの実績に基づく 無菌技術と検証技術における信頼性の高さ 
ボトリング充填設備 食品包装加工設備 ✓ ラベラ、ラップラウンドケーサ ✓ アンスクランブラ、ロボットケーサ ✓ カップ充填シールシステム	✓ ボトリングラインのターンキー対応 ✓ 画像処理 + コンベヤトラッキング技術 ✓ 軟質容器の搬送技術 ✓ 個別特殊仕様への対応力 

当社製品（パッケージングプラント事業）

<パッケージングプラント事業>

当社製品	当社製品の優位性
医薬品製造設備 ✓ 注射剤無菌製造システム ✓ ワクチン製造システム ✓ アイソレータ滅菌システム ✓ 製造支援DXスマートファクトリー	✓ 充填部周辺のアイソレータや調製設備のトータルエンジニアリングによる高品質と収率向上 ✓ 滅菌技術、検証技術、無菌環境下でのハンドリング技術における信頼性の高さ 
再生医療 ✓ 細胞加工システム ✓ 細胞等製品 ✓ バイオマテリアル製品	✓ 細胞加工システムでは、「無菌性と高品質」だけではなく、細胞製品には難しい大量生産をターゲットにしたシステムを展開 ✓ 新治療開発の初期から参画し、細胞の製造開発・製造受託・申請業務に係ることで、開発のトータル時間を大幅に縮小、量産化にもスムーズに移行 ✓ バイオマテリアル製品は、様々な治療での使用・応用が可能で、培養品質の向上や新規治療法の開発に貢献  

当社製品（パッケージングプラント事業）

<パッケージングプラント事業>

当社製品	当社製品の優位性
工作加工設備 ✓ 固液混合・分散システム	✓ 各分野での豊富な実績 － カーボン系微粉末スラリー － リチウムイオン電極材スラリー － 高機能接着剤 － 食品・飲料分野 ✓ 高粘度製品のトータルエンジニアリングに対応可能 (システムをまるごとエンジニアリング) ✓ インライン・連続固液混合分散が可能 
食品包装加工設備 ✓ 過熱水蒸気式焼成機 “JESTOS”	✓ 過熱水蒸気による食品加工システム ✓ JESTOS1台5役で幅広いレシピに対応可能 (焼く、蒸す、煮る、炒める、殺菌) ✓ 過熱水蒸気循環式の採用によりランニングコストの低減を実現 ✓ 高付加価値な商品づくりを実現 JESTOS 機械サイズのカスタマイズ可  JESTOS Jr. コンパクトサイズなのに大能力 

当社製品（メカトロシステム事業）

<メカトロシステム事業>

当社製品	当社製品の優位性	
医療機器 ✓ 個人用透析装置 ✓ 透析用監視装置 ✓ 多人数用透析液供給装置	✓ 透析市場に精通したニプロ社と強力なパートナーシップを構築 ✓ 当社独自の、粘性体をコントロールするビスカスコントロールシステムを採用 ✓ あらゆる地域向けにそれぞれ適した製品を豊富にラインナップ 	
半導体製造設備 ✓ 半導体実装装置 ✓ テストハンドラ ✓ 超音波洗浄装置	✓ 高精度位置決め技術 ✓ レーザ応用接合技術 ✓ 大型チップ／基板対応技術	▶ 先端半導体パッケージ用ボンダ 光トランシーバ用ボンダ 
工作加工設備 ✓ 汎用ファイバレーザ加工機 ✓ 石英ガラス用レーザ加工機 ✓ 超微細精密レーザ加工機	✓ 左右・手前・天井の4方向からワークの搭載可能な省フットプリント機 ✓ 平板からパイプまで半導体製造装置に使用される高精度石英部品を加工 ✓ 用途に応じ、ガス、ファイバ、アブレーションと各種の微細レーザで高精度加工 	

当社製品（メカトロシステム事業／農業用設備事業）

<メカトロシステム事業>

当社製品	当社製品の優位性
工作加工設備 ✓ ハイブリッドサーボプレス ✓ サイドフレーム型油圧プレス	✓ プレス能力2500tonの大型プレスが製造可能 ✓ レバー操作式のフリー熱間鍛造プレス ✓ 縦・横のワーク姿勢に対応したトランスファー装置を搭載 ✓ 多種多様な油圧制御技術 ✓ 顧客の専門性、特殊性への対応力 

<農業用設備事業>

当社製品	当社製品の優位性
農業選別設備 ✓ 選果選別システム ✓ 果実糖度分析システム	✓ 選果選別システムの国内トップメーカー ✓ 最新AIを搭載した画像処理システム ✓ 選果データをDX化し生産者への営農指導に活用される「KAISEKIシステム」 ✓ 生産効率を向上させる搬送・ロボット技術 自動化 省人化 

World Leading Technology



澁谷工業株式会社
シブヤグループ

< 本資料ならびにIRに関するお問い合わせ先 >

澁谷工業株式会社 経理本部 IR部

TEL : 076-262-1240 E-mail : ir-info@shibuya.co.jp

URL : <https://www.shibuya.co.jp/ir/>



本資料は、投資判断の参考になる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。
また、本資料は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、
当社としてその実現を約束するものではありません。今後の実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。